

第4章 独自研究支援・情報発信及び管理・運営等

第1節 独自研究支援

1. 総合科学推進プロジェクト

総合科学部を担当する専任教員等により、文系、理系の異なる研究領域にまたがり、プロジェクトを推進することで独自の研究支援を行っている。

(1) 概要

この研究支援は、平成22年度の総合科学研究科時代から、文系と理系にまたがる共同研究をはじめ、様々な形の総合科学的、学際的研究の推進を目的として、総合科学推進プロジェクト事業を継続している。本事業では、構成員が申請した研究計画調書を審査し、採択されたプロジェクトに上限100万円の助成を行ってきた。プロジェクトに応募できるのは、総合科学部を担当する複数の教員となっており、今日では、大学院研究科をまたがる共同研究を促進する役割も果たしている。

申請課題の審査には、学部長室会議構成員が当たり厳正な審査の元、採択課題を決定している。

現在、学部で定める実施要領では、以下の運用となっている。

- 1) 研究組織には、総合科学部以外の部局や他大学等の教員・研究者を含めることができるほか、大学院生、研究生、学部生等を研究協力者とすることができる。
- 2) 研究成果は、総合科学部のFD研修会で発表するとともに、総合科学科1年次生向け必修科目「総合科学へのいざない」(第2ターム)において、総合科学の実践例として紹介する。
- 3) 研究成果は、学会発表や論文投稿等により公表することを推奨する。

令和4～6年度採択のプロジェクト一覧は、表4-1-1のとおり。

表4-4-1 総合科学推進プロジェクト採択一覧

(令和4年度)

No.	研究代表者	研究課題名	配分額(円)
1	久我 ゆかり 教授	菌糸圏と界面・物理科学	700,000
2	浅野 敏久 教授	「地域まるごと博物館」の動画制作を通じた地域調査教育プログラム開発	700,000
3	水羽 信男 教授	アジアのなかの広島と長崎 II：戦争と平和に関する総合的研究にむけて	500,000
4	ヴィレヌーヴ 真澄美 教授	～材料から生命まで～生成・消滅・変化するソフト界面からの総合理解	700,000

5	柴田 美紀 教授	広島大学の English-medium instruction (EMI) 改善に向けて－EMI スキルアップ・サイトの作成プロジェクト	532,700
			3,132,700

(令和5年度)

No.	研究代表者	研究課題名	配分額 (円)
1	田中 亮 教授	睡眠衛生は若年者のロコモティブシンドロームのリスクを減少させるか？	700,000
2	久我 ゆかり 教授	菌糸圏と界面・物理科学 (2)	700,000
3	中尾 麻伊香 准教授	核・原爆にまつわる表現の探究――アーカイヴズ・記憶と現代を架橋する実践	700,000
4	匹田 篤 准教授	想起と表現に注目した、学びのデザイン研究	490,000
5	ヴィレヌーヴ 真澄美 教授	米粉パンの総合科学	700,000
			3,290,000

(令和6年度)

No.	研究代表者	研究課題名	配分額 (円)
1	山根 典子 教授	Speech-Gesture Coupling: Impact of Music Practice on Oral Articulation in English	693,700
2	中林 雅 准教授	野生動物の個体追跡による獣害発生の予測への挑戦	695,800
3	成松 勇樹 特任助教	男子大学生における隠れ肥満と食事・運動・睡眠習慣の実態調査	308,000
4	匹田 篤 准教授	想起とゲームに着目したリテラシー教育モデルの研究	495,000
5	ゾレット シモーナ 助教	Towards a sustainable Satoyama future: preserving and revitalizing traditional socio-ecological landscapes	698,600
			2,891,100

(2) 点検・評価

令和4年度から令和6年度は、それぞれ5件のプロジェクトが採択されている。研究代表者の所属領域や視点を見ると、広い専門分野の教員から共同研究が立案実施されていることがわかる。他方で（表4-4-1には明示されていないが）採択されたプロジェクトの内容の詳細を見ると、隣接分野間での共同研究が多く、今後は文系と理系にまたがる共同研究など、より挑戦的な共同研究も推進していくことが課題となっている。

本プロジェクトに採択された研究課題は、総合科学部が求める学際性を有しており、1年間という限られた期間内で一定の研究成果をあげている。また、研究をさら

に発展させるために継続申請するプロジェクトもある。

研究成果は、採択された年度の3月以降に開催される総合科学部FD研修会において報告されるほか、令和2年度からは、学科1年次生向け必修科目「総合科学へのいざない」において、すべてのプロジェクトの研究代表者が「総合科学」の実践例としてそれぞれの研究を紹介している。同授業の受講生からは、総合科学的な研究というものを具体的に知ることのできる発表であったとのコメントがよせられた。本プロジェクトは、総合科学部の授業で紹介されるほか、大学院生や学部生を研究協力者とするなど、研究と教育とを結びつける役割を果たしている。

さらに、本プロジェクトにおいて得られた研究成果の一部は、学会報告や学術論文として発表されている。

第2節 情報発信・広報活動

1. 概要

これまで総合科学部では、多くの刊行物や学部のホームページ（HP）を活用し、情報発信や広報活動に努めてきた。また、学会・関係団体の催しを通じて、情報発信にも力を入れてきた。

(1) 共催・後援等名義使用実績

令和4年度～6年度に総合科学部の名義を使用した共催・後援等は、表4-2-1のとおりで1件のみであった。

(2) 広報活動

広報・出版委員会は、令和4年度から6年度においても引き続き、本学部の専任教員等の教育研究活動などに関する情報を、出版物、ホームページなどを通じて積極的に発信してきた。

出版物は、例年どおり、①研究成果及び学位取得者の要旨を掲載する年1回の研究科紀要、年1冊刊行の『叢書インテグラール』（表4-2-2）、②必要な改訂を施した学部案内パンフレット『無限への挑戦』、③学部学生が編集を担当する年1回発行の『飛翔』最新号は、101号（2025年3月）となっており、教員紹介、OB・OGインタビュー、留学体験記など現在の総科の様子がよくわかる紙面となっている。

＜広島大学総合科学部ホームページ/広報・刊行物＞

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/souka/brochure>

なお、学部ホームページについては、レイアウト及び項目などの見直しを適宜行い、改善に努めるとともに、研究成果、セミナー・イベント開催等最新情報の提供を行っている。

また、夢ナビライブ（大学合同説明会）に積極的に参加し、その動画をWebサイトでミニ講義として配信を行っており、特に受験生を対象に積極的に広報を行っている（表4-2-3）。

＜広島大学総合科学部教員によるミニ講義＞

<https://yumenavi.info/portal.aspx?CLGAKOCD=034720&p=hiroshima-u-souka>

表4-2-1 総合科学部共催・後援等名義使用許可（R4～6年度）

年月	事業名	主催者	申請教員
令和6年11月	2024年度第31回アイルランド研究年次大会	日本アイルランド協会	桑島 秀樹教授

表 4-2-2 【叢書インテグラール】(令和4年度～令和6年度)

発行年度	巻数・テーマ	責任編集/著作者	発行所
令和4年度	叢書インテグラール 021 エコミュージアムと大学博物館	浅野 敏久 編著	丸善出版 (株)
令和5年度	叢書インテグラール 022 中日対照 中国語の語彙化研究—文化的概念の形成をめぐって	盧 濤 著	丸善出版 (株)
令和6年度	叢書インテグラール 023 翻訳者・媒介者としての外国籍・外国ルーツの行政職員—現場にみる期待・役割・課題	長坂 格 編著	丸善出版 (株)

https://www.hiroshima-u.ac.jp/souka/brochure/kanko_butu/kaku_integ

表 4-2-3 夢ナビ講義 VIDEO 制作・公開実績

<令和5(2023)年度>

(※退職者の VIDEO を除き、現在公開されているコンテンツ)

公開年月	学科	担当教員		タイトル
2023年6月	総合科学科	准教授	中林 雅	野生動物を観る 生物どうしのつながりを見つけよう
2023年7月	国際共創学科	准教授	張 慶在	ミステリーコンテンツツーリズムとは
2023年8月	総合科学科	准教授	橋本 真太郎	不確実性を評価する
2023年8月	総合科学科	教授	関矢 寛史	プレッシャーに克つためのメンタルトレーニング
2023年8月	国際共創学科	准教授	岩本 洋子	微粒子が地球を冷ます？ 大気エアロゾルの気候影響

<令和6(2024)年度>

公開年月	学科	担当教員		タイトル
2024年4月	総合科学科	教授	緒形 ひとみ	タイミングって意外に大事?! スポーツ科学の視点から
2024年5月	総合科学科	准教授	齋藤 光代	地下から大切な栄養が届く! 海底湧水が支える海の生態系
2024年5月	総合科学科	教授	坂田 桐子	なぜ女性リーダーは少ないのか?
2024年5月	国際共創学科	教授	山田 俊弘	競争に勝つために必要なたった1つのこと
2024年5月	国際共創学科	准教授	掛江 朋子	平和のための紛争解決論
2024年7月	総合科学科	准教授	匹田 篤	情報のデザイン 学びのデザイン

＜参考：令和 4(2022)年度以前に作成された VIDEO＞

公開年月	学科	担当教員		タイトル
2018 年 4 月	国際共創学科	教授	ヴィレヌーヴ 真澄美	界面活性剤の構造と働きを知っていますか？
2018 年 4 月	総合科学科	准教授	進矢 正宏	スポーツ科学：ヒトの運動をはかる
2016 年 7 月	総合科学科	教授	林 光緒	受験勉強と睡眠のカンケイ
2015 年 11 月	国際共創学科	教授	柴田 美紀	英語コミュニケーションの裏ワザ
2014 年 10 月	国際共創学科	教授	フンク・カロ リン	外国人観光客が日本に求めていること
2014 年 6 月	総合科学科	教授	乾 雅祝	電気が流れる液体－液体金属の物性科学

2. 点検・評価

(1) 効果が上がっている事項

今回は 1 件のみであったが、総合科学部を共催・後援等の名義として使用する例があったことは、前向きにとらえることができる。叢書インテグラールについては、毎年度、単著あるいは共著として、人文・社会科学の教員により刊行がされている。自然科学分野は著書を刊行する慣習がそれほど強くないことを考慮すれば、複数の分野からの成果刊行がなされているものと評価してよい。また、夢ナビ講義 VIDEO の作成と公開については、毎年度 5 人前後、人文・社会・自然科学の教員からの協力が得られている。以上はいずれも積極的な学際的交流の成果公表ということではないが、異なるディシプリンをもつ教員からの参加がなされているという点において前向きに自己評価したい。

(2) 改善すべき事項

上述のように、総合科学部が目指す積極的な文理の学際的交流の面は今後強化されるべきである。

第3節 総合科学研究科教育活動

1. 現状の説明

大学院は、令和元年度の統合生命科学研究科の設立、令和2年度の間人社会科学研究所、先進理工科学研究科の設立で、総合科学研究科では学生募集を停止し、新しく再編された3つの研究科で学生を募集し、教育研究活動を続けている。

ここでは、総合科学研究科に在籍している修了状況、学生数の推移についてのみ記載する。

総合科学研究科の運営体制は、研究領域主任（表4-3-1）で構成する教務委員会、教授会を残すのみで、多くの機能を学部に移して行っている（第4節に詳述）。

表4-3-1 総合科学研究科(研究領域主任)

役職	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生命科学研究領域主任	佐藤 明子	久我 ゆかり	久我 ゆかり
人間行動研究領域主任	小川 景子	小川 景子	小川 景子
身体運動科学研究領域主任	和田 正信	和田 正信	和田 正信
言語研究領域主任	井口 容子	井口 容子	井口 容子
人間存在研究領域主任	RIGSBY CURTIS ANDREW	RIGSBY CURTIS ANDREW	RIGSBY CURTIS ANDREW
自然環境研究領域主任	小澤 久	小澤 久	小澤 久
総合物理研究領域主任	荻田 典男	梶原行夫	梶原 行夫
情報システム環境研究領域主任	児玉 明	児玉 明	児玉 明
社会環境研究領域主任	佐々木 宏	佐々木 宏	佐々木 宏
文明史基礎研究領域主任	シラルプ ハス ミヤエル	長坂 格	長坂 格
地域研究領域主任	柳瀬 善治	柳瀬 善治	柳瀬 善治

令和4年度から令和6年度までに修了した学生数については、表4-3-2のとおりである。

表4-3-2 総合科学研究科:学生の修了状況(令和4年度～令和6年度)
(令和4年度)

単位:(人)

		修了者		単位取得 満期退学者	計
		博士課程 前期	博士課程 後期	博士課程 後期	
人間科学 部門	生命科学研究領域				0
	人間行動研究領域		1		1
	身体運動科学研究領域		1	1	2
	言語研究領域		1		1

	人間存在研究領域		1	1	2
環境科学 部門	自然環境研究領域				0
	総合物理研究領域				0
	情報システム環境領域				0
	社会環境研究領域				0
文明科学 部門	文明史基礎研究領域				0
	地域研究領域		1	1	2
21世紀科学 プロジェクト群	言語と情報研究				0
	文明と自然研究		1		1
	リスク研究				0
	資源エネルギー研究		1		1
	要素-システム研究				0
	ヒロシマ平和学				0
	ヒロシマの形成				0
	環境平和学				0
	ヒロシマ韓国学				0
計		0	7	3	10

(令和5年度)

単位:(人)

		修了者		単位取得 満期退学者	計
		博士課程 前期	博士課程 後期	博士課程 後期	
人間科学 部門	生命科学研究領域				0
	人間行動研究領域		1	2	3
	身体運動科学研究領域			4	4
	言語研究領域	1	1		2
	人間存在研究領域			2	2
環境科学 部門	自然環境研究領域				0
	総合物理研究領域				0
	情報システム環境領域				0
	社会環境研究領域		1		1
文明科学 部門	文明史基礎研究領域				0
	地域研究領域		1		1
21世紀科学 プロジェクト群	言語と情報研究				0
	文明と自然研究			1	1
	リスク研究		1		1
	資源エネルギー研究				0
	要素-システム研究				0
	ヒロシマ平和学				0
	ヒロシマの形成				0
	環境平和学				0

	ヒロシマ韓国学				0
	計	1	5	9	15

(令和6年度)

単位:(人)

		修了者		単位取得 満期退学者	計
		博士課程 前期	博士課程 後期	博士課程 後期	
人間科学 部門	生命科学研究領域				0
	人間行動研究領域		1		1
	身体運動科学研究領域				0
	言語研究領域				0
	人間存在研究領域		1		1
環境科学 部門	自然環境研究領域				0
	総合物理研究領域				0
	情報システム環境領域				0
	社会環境研究領域				0
文明科学 部門	文明史基礎研究領域				0
	地域研究領域		2	1	3
21世紀科学 プロジェクト群	言語と情報研究		1		1
	文明と自然研究			1	1
	リスク研究				0
	資源エネルギー研究				0
	要素-システム研究				0
	ヒロシマ平和学				0
	ヒロシマの形成	1			1
	環境平和学				0
ヒロシマ韓国学				0	
計		1	5	2	8

2. 点検と評価

(1) 効果が上がっている事項

在学学生も過年度生を残すのみとなっており、修了生も少ないことから特に記載すべき事項はない。

(2) 改善が必要な事項

総合科学研究科の在学学生は、令和7年5月1日の段階で博士課程後期の学生10名のみとなっている。全員が令和元年度以前の入学生で過年度生である。また、約半数の4名が休学中である(表4-3-3)。ただし、休学の制度をうまく利用することにより仕事をしながら研究をバランスよく進めている在学学生もいるため、個別の理解と対応が必要である。

指導教員も退職していく中、学生の希望に沿いつつ、特段の理由がなければなるべく早期に修了させられるよう、指導体制の確認と学生への適切なケアを行っていくことが求められる。

表 4-3-3 総合科学研究科学生数の推移

単位:(人)

年度別	博士前期		博士後期		計
	在学生数	うち休学者	在学生数	うち休学者	
R4.5.1 現在	3	1	44	13	47
R5.5.1 現在	2	0	33	13	35
R6.5.1 現在	1	0	17	7	18
R7.5.1 現在	0	0	10	4	10

(出典：教育部教育推進グループ作成の各年度の「学生数調」を参照し，作成)

第4節 管理・運営

1. 概要

(1) 運営組織

広島大学の運営組織は、平成 16（2004）年4月の国立大学法人化以降、様々な競争環境に晒され、発展と効率化を目指した変革を遂げている。総合科学部でも大学の政策に応じて改革を続けている。

特に令和2年度の大学院の再編が完了して以降は、これまでの総合科学を通じた学部、研究科のトンネル型運営から、3研究科にまたがる複雑化した運営体制を敷くことになり、適宜順応した改革を行ってきた。

令和6年度からは、研究科との連携の見直しから、学部の運営体制を以下のとおり見直している。

- ①総合科学研究科とのパイプ役として置いていた副学長（学術・社会連携担当）及び同（研究科連携担当）を廃止し、3研究科との新たな連携を図るため、各研究科のプログラム長等を代表する教員を学部長特別補佐として置くようにした。
- ②総合科学学科長を兼ねていた副学部長（学士課程教育担当）の負担を考慮し、学科長を副学部長（*副学部長は学科長を兼ねることができる）とした。
- ③令和6年度に学部創立50周年を迎えることから、時限付きで学部長補佐（記念事業担当）を新設した。

このとおり、学部の円滑な運営を目指した体制へと移行している（図4-4-1、表4-4-1）。

図4-4-1 運営組織図（令和7年4月1日現在）

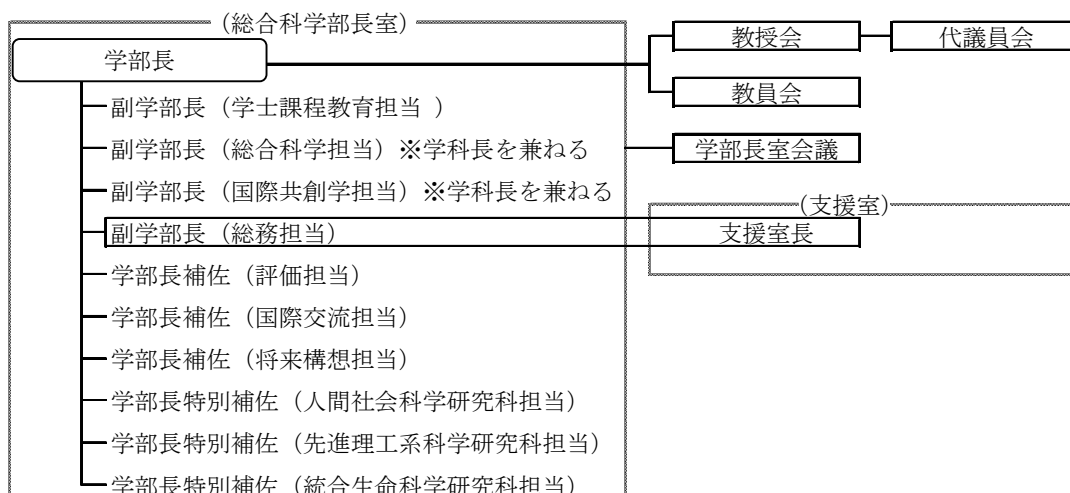


表4-4-1 総合科学部役職員の变遷

1. 総合科学部長室

役職名等	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
総合科学部長	関矢 寛史	関矢 寛史	山田 俊弘	
副学部長 (学士課程教育担当)	青木 利夫	青木 利夫	田中 亮	
〃 (学術・社会連携担当)	ヴィレヌーヴ 真澄美	ヴィレヌーヴ 真澄美	/	
〃 (大学院教育連携担当)	長坂 格	長坂 格		
〃 (総合科学担当)	/	/		坂田 桐子
〃 (国際共創学担当)				FUNCK, CAROLIN・E H
〃 (総務担当)	大石 のぞみ	大石 のぞみ	大石 のぞみ	
学部長補佐 (評価担当)	丸田 孝志	丸田 孝志	杉木 恒彦	
〃 (国際共創学科担当)	山田 俊弘	山田 俊弘	/	
〃 (国際交流担当)	/	FUNCK, CAROLIN・E H		FUNCK, CAROLIN・E H
〃 (記念事業担当)		長坂 格		
学部長特別補佐 (人間社会科学研究科担当)	/	辻 学	丸田 孝志	
〃 (先進理工系科学研究科担当)		東谷 誠二	東谷 誠二	
〃 (統合生命科学研究科担当)		和崎 淳	石田 敦彦	
総合科学科長	青木 利夫	青木 利夫	坂田 桐子	
国際共創学科長	山田 俊弘	山田 俊弘	FUNCK, CAROLIN・E H	

2. 教育領域主任

役職	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人間探究領域主任	河合 信晴	小宮 あすか	上泉 康樹
自然探究領域主任	中坪 孝之	宗尻 修治	久我 ゆかり
社会探究領域主任	春日あゆか	城戸 光世	浅野 敏久

一方、総合科学研究科では、令和2年度から在学生の修了に向けた学位審査、学位授与判定などを行うための教務委員会、教授会のみ残した運営体制となっている。このため、新旧研究科の運営事項の多くは、学部長室に移して一体で審議・決定するようにしている。

学部長室の構成メンバーは、図4-4-1で示す通り、「室長である学部長、副学部長、学部長補佐及び学部長が必要と認めた者で構成」(広島大学総合科学部運営内規第9条)し、その所掌事項を「広島大学総合科学部長室運営細則」において、次のように定めている。

- (1) 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項
- (2) 教授会等の審議に関する事項
- (3) 教育活動、研究活動及び社会貢献活動に関する事項
- (4) 国際交流に関する事項
- (5) 人的資源、物的資源及び財的資源の活用に関する事項
- (6) 規則等の制定及び改廃に関する事項
- (7) 危機管理及び安全衛生管理に関する事項
- (8) 情報ネットワーク及び情報セキュリティに関する事項
- (9) 教育研究活動等の点検・評価・改善及び公表に関する事項
- (10) 広報及び構成員の意見聴取に関する事項
- (11) その他学部長室の目的を達成するために必要な事項

上記の事項に関し、協議するため学部長室に学部長室会議を置き、月2回程度開催し、本学部及び新旧研究科における運営などに関する事項を審議・検討している。

(2) 審議機関

広島大学部局運営規則第11条に基づき、広島大学総合科学部運営内規第10条で「教授会は、学部教授会とする」と定めるとともに、教授会の運営に関し必要な事項は、次の広島大学総合科学部教授会内規、広島大学総合科学部教授会運営細則において定めている。

広島大学部局運営規則（抄）

(教授会)

第11条 部局に、審議機関として教授会を置く。

2 (略)

3 教授会は、当該部局における次の事項を審議する。

- (1) 長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育、研

- 究及び社会貢献活動に関する事項
- (2) 教員選考における教育，研究及び社会貢献に係る業績審査に関する事項
 - (3) 学生の受入れと身分に関する事項
 - (4) 学位の授与に関する事項
 - (5) 教育課程に関する事項
 - (6) 研究活動に関する事項
 - (7) 社会貢献活動に関する事項
 - (8) 教育，研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
 - (9) その他部局長が必要と認めた教育，研究及び社会貢献に関する事項

広島大学総合科学部教授会内規（抄）

（審議事項）

第3条 教授会は，規則第11条第3項に定める事項を審議する。

（略）

（代議員会）

第8条 代議員会に関し必要な事項は，別に定める。

広島大学総合科学部教授会運営細則（抄）

（審議事項）

第3条 教授会における審議事項は，次に掲げる事項とする。

(1) 学部における研究及び社会貢献活動に関する事項

- イ 長期的な目標，中期目標・中期計画及び年度計画における研究及び社会貢献活動に関する事項
- ロ 教員選考における教育研究及び社会貢献に係る業績審査に関する事項
- ハ 研究活動に関する事項
- ニ 社会貢献活動に関する事項
- ホ 教育研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- ヘ その他学部長が必要と認めた教育研究及び社会貢献に関する事項

(2) 学部における教育に関する事項

- イ 長期的な目標，中期目標・中期計画及び年度計画における教育に関する事項
- ロ 教員の教育担当に関する事項
- ハ 学生の受入れ及び身分に関する事項
- ニ 学位の授与に関する事項

- ホ 教育課程に関する事項
- へ 教育に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項
- ト その他学部長が必要と認めた教育に関する事項

学部教授会においては、審議事項について月1回程度開催し審議しており、部局の審議機関としての役割を適切に果たしている。

(3) 各種委員会

本学部・本研究科の運営のために表4-4-2に示したような委員会を設けている。

なお、本報告書のかなりの部分は、これらの委員会の点検・評価に基づいている。

(4) 教員組織

本学部においては、平成29年度までは総合科学科のみの1学科体制だったが、平成30年度の国際共創学科(IGS)設置に伴い2学科体制へ移行し、学部教育を行うために、学部併任教員を配置している。

また、総合科学研究科については、平成30年度までは、総合科学専攻に5つの基幹講座(行動科学講座、人間文化研究講座、環境自然科学講座、社会文明研究講座、地域研究講座)と1つの協力講座(情報システム研究講座)を置き、専任教員を配置していたが、研究科再編により、平成31年度に、生命科学関連教員が新設の統合生命科学研究科へ配属換、令和2年度に、生命科学関連教員を除く全教員が新設の人間社会科学研究科及び先進理工系科学研究科へ配属換となり、現在に至る。

(5) 事務組織

法人化に伴い従来の部局事務室を見直し、部局における重要事項について企画立案及び業務を執行し、部局長を直接的に支援する組織として部局長室(総合科学部長室)を置き、また、部局の運営を円滑に行うための教育研究学生等支援組織として支援室(総合科学研究科支援室)を配置した。

なお、事務組織は、業務の効率的な遂行や人件費削減等の観点から随時見直されている。変更経緯は次のとおりである。

平成18年4月1日 教育研究学生支援室が「支援室」に名称変更

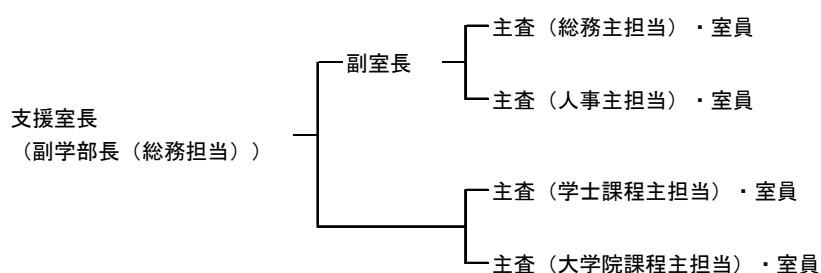
平成21年4月1日 副研究科長(総務担当)は、支援室長をもって充てるとされた。

部局長支援グループと教育研究活動支援グループを見直し、「運営支援グループ」に名称変更

平成 22 年 4 月 1 日	学生支援グループの職員が教育室所属から総合科学研究科所属に変更
平成 26 年 6 月 1 日	運営支援体制の見直しにより，東広島地区運営支援部総合科学研究科支援室に名称変更 運営支援体制の再編に伴い，財務関係業務を「共回事務室」に集約
令和 2 年 4 月 1 日	研究科の再編に伴い，東広島地区運営支援部総合科学系支援室に名称変更

令和 5 年 4 月 1 日現在の支援室の構成は，図 4-4-2 のとおりである。

図4-4-2 総合科学系支援室組織図(令和5年4月1日現在)



(6) 予算・決算

研究科再編以降，人間社会科学研究科，先進理工系科学研究科，統合生命科学研究科それぞれの予算配分要項(各研究科運営会議等で審議)に基づき，教員・プログラム等への配分予算，支援室予算の区分で配分されている。

基盤経費のうち，博士課程前期積算分・博士課程後期積算分は主指導教員に，研究者積算分は各教員に配分している。学士課程積算分は総合科学部担当教員数に基づき該当教員へ配分している。

支援室予算には，総合科学系支援室の所掌する学部・研究科の各委員会のほか，支援室の運営に要する共通予算が配分されている。その中で，プロジェクト予算として，総合科学推進プロジェクト，学生独自プロジェクトを実施するための予算を毎年度確保しており，総科カフェを学部長裁量経費で支援している（表 4-2-3）。

2. 点検・評価

本学部の全教職員は，全学の規則に従い運営のために必要な組織を整備し，絶えざる点検・評価活動を通じて，自己改革を行ってきた(役職員などについては表 4-4-3 を参照)。

例えば学部長室会議は，令和 4 年度 19 回，令和 5 年度 25 回，令和 6 年度 24 回と精力

的に企画・立案に努めてきた（表 4-4-4）。また教員会など全ての会議で、会議資料を“いろは”（全学情報共有基盤システム）上に置き、関係構成員の閲覧を可能とし構成員への情報提供を担保するとともに効率化を図り、SDGs に配慮したペーパーレス化を推進している。

また、会議参画の利便性向上を図るため、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッドの開催も継続している。

本学部では、以前から研究成果発表や本部からの有益な情報を得るための説明会を独自のファカルティ・ディベロプメント (FD) に位置付け積極的に開催しており、教員の知見を深めるとともに、改革意識の向上や必要な知識の共有を高めている（表 4-4-5）。

表4-4-2

令和4年度 総合科学部代議員会・各種委員会 名簿

学部代議員会（学部長が必要と認めたときに開催する。）

学部長	関 矢 寛 史
副学部長（学術・社会連携担当）	ヴィレヌーヴ 真澄美
副学部長（学士課程教育担当）	青 木 利 夫
副学部長（大学院教育連携担当）	長 坂 格
副学部長（総務担当）	大石のぞみ
学部長補佐（評価担当）	丸 田 孝 志
学部長補佐（IGS担当）	山 田 俊 弘
広報・出版委員会委員長	長 谷 川 博

評価委員会

委員長	学部長補佐（評価担当）	丸 田 孝 志
委員	副学部長（総務担当）	大石のぞみ
	人間探究領域	井 上 永 幸
	自然探究領域	阿 部 誠
	社会探究領域	長 田 浩 彰
	国際共創学科	白 川 俊 之
	学部教務委員会選出	宗 尻 修 治

広報・出版委員会

委員長	長 谷 川 博	
委員	人間探究領域	大 嶋 広 美
	人間探究領域	田 中 亮
	自然探究領域	岸 場 清 悟
	自然探究領域	彦 坂 暁
	社会探究領域	崔 真 碩
	社会探究領域	溝 淵 正 季
	国際共創学科	グラジディアン マリア ミハエラ
	学部長が必要と認めた者	荻 田 典 男

学部入学試験委員会

委員長	石 田 敦 彦	
委員	人間探究領域	クレントン ジョン
	人間探究領域	進 矢 正 宏
	人間探究領域	杉 浦 義 典
	自然探究領域	石 原 康 宏
	自然探究領域	東 谷 誠 二
	自然探究領域	渡 邊 英 伸
	社会探究領域	荒 見 泰 史
	社会探究領域	武 田 紀 子
	社会探究領域	中 村 江 里
	国際共創学科	田 中 晋 平
	国際共創学科	西 真 如

学部入学試験合格者判定委員会

委員長	学部長	関 矢 寛 史
委員	副学部長（学士課程教育担当）	青 木 利 夫
	入学試験委員会委員長	石 田 敦 彦
	国際共創学科長	山 田 俊 弘

国際共創学科入学試験委員会

委員長	関 恒 樹
副委員長	田 中 晋 平
委員	西 真 如
	リクスビ- カティスア ドリュ-

学部教務委員会

委員長	副学部長（学士課程教育担当） 国際共創学科長	青木利夫 山田俊弘
副委員長	人間探究領域 教育領域主任	河合信晴
副委員長	自然探究領域 教育領域主任	中坪孝之
副委員長	社会探究領域 教育領域主任	春日あゆか
委員	人間探究領域	井上永幸
	人間探究領域	小宮あすか
	人間探究領域	田中亮
	自然探究領域	阿部誠
	自然探究領域	佐藤明子
	自然探究領域	宗尻修治
	社会探究領域	城戸光世
	社会探究領域	園井ゆり
	社会探究領域	福田恵
	国際共創学科	柴田美紀

学部卒業生判定委員会

委員長	学部長	関矢寛史
委員	副学部長（学士課程教育担当） 人間探究領域 教育領域主任	青木利夫 河合信晴
	自然探究領域 教育領域主任	中坪孝之
	社会探究領域 教育領域主任	春日あゆか
	国際共創学科長	山田俊弘

国際共創学科教務委員会

委員長	柴田美紀
委員	山田俊弘
	町田章
	ヴィレヌーヴ 真澄美
	張慶在
	関恒樹
	岩本洋子
	タフアナール ロバート ホースト

総合科学科履修指導小委員会

委員長	人間探究領域	河合信晴
委員	人間探究領域	井上永幸
	人間探究領域	小宮あすか
	自然探究領域	佐藤明子
	自然探究領域	阿部誠
	社会探究領域	園井ゆり
	社会探究領域	福田恵

国際共創学科国際委員会

委員長	河本尚枝
委員	片柳真理
	岩本洋子
	田中晋平
	タフアナール ロバート ホースト
	グラジディアン マリア ミハエラ
	渠蒙

令和5年度 総合科学部代議員会・各種委員会 名簿

学部代議員会 (学部長が必要と認めたときに開催する。)

学部長	関 矢 寛 史
副学部長 (学術・社会連携担当)	ヴィレヌーヴ 真澄美
副学部長 (学士課程教育担当)	青 木 利 夫
副学部長 (大学院教育連携担当)	長 坂 格
副学部長 (総務担当)	大 石 の ぞ み
学部長補佐 (評価担当)	丸 田 孝 志
学部長補佐 (IGS担当)	山 田 俊 弘
広報・出版委員会委員長	長 谷 川 博

評価委員会

委員長	学部長補佐 (評価担当)	丸 田 孝 志 (社会探究領域)
委員	副学部長 (総務担当)	大 石 の ぞ み
	人間探究領域	和 田 正 信
	自然探究領域	小 澤 久
	国際共創学科	白 川 俊 之
	学部教務委員会選出	宗 尻 修 治

広報・出版委員会

委員長	長 谷 川 博	
委員	人間探究領域	杉 浦 義 典
	人間探究領域	辻 輝 之
	自然探究領域	岸 場 清 悟
	自然探究領域	彦 坂 暁
	社会探究領域	的 場 い づ み
	社会探究領域	溝 淵 正 季
	国際共創学科	町 田 章
	学部長が必要と認めた者	荻 田 典 男

学部入学試験委員会

委員長	石 田 敦 彦 (自然探究領域)	
委員	人間探究領域	大 嶋 広 美
	人間探究領域	杉 浦 義 典
	自然探究領域	渡 邊 英 伸
	社会探究領域	荒 見 泰 史
	社会探究領域	李 郁 恵
	国際共創学科	田 中 晋 平

学部入学試験合格者判定委員会

委員長	学部長	関 矢 寛 史
委員	副学部長 (学士課程教育担当)	青 木 利 夫
	入学試験委員会委員長	石 田 敦 彦
	国際共創学科長	山 田 俊 弘

国際共創学科入学試験委員会

委員長	関 恒 樹
副委員長	田 中 晋 平
委員	山 根 達 郎
	リグスビ-カテイク ドリュ-

学部教務委員会

委員長	副学部長（学士課程教育担当）	青木利夫
	国際共創学科長	山田俊弘
副委員長	人間探究領域 教育領域主任	小宮あすか
副委員長	自然探究領域 教育領域主任	宗尻修治
副委員長	社会探究領域 教育領域主任	城戸光世
委員	人間探究領域	上泉康樹
	人間探究領域	関村誠
	人間探究領域	山根典子
	自然探究領域	稲垣知宏
	自然探究領域	小澤久
	自然探究領域	久我ゆかり
	社会探究領域	浅野敏久
	社会探究領域	園井ゆり
	社会探究領域	渡邊誠
	国際共創学科	柴田美紀

学部卒業者判定委員会

委員長	学部長	関矢寛史
委員	副学部長（学士課程教育担当）	青木利夫
	人間探究領域 教育領域主任	小宮あすか
	自然探究領域 教育領域主任	宗尻修治
	社会探究領域 教育領域主任	城戸光世
	国際共創学科長	山田俊弘

国際共創学科教務委員会

委員長	柴田美紀
委員	ヴィレヌーヴ真澄美
	片柳真理
	張慶在
	山田俊弘

総合科学科履修指導小委員会

委員長	人間探究領域	小宮あすか
委員	人間探究領域	上泉康樹
	人間探究領域	関村誠
	自然探究領域	稲垣知宏
	自然探究領域	小澤久
	社会探究領域	園井ゆり
	社会探究領域	渡邊誠

国際共創学科国際委員会

委員長	河本尚枝
委員	岩本洋子
	掛江朋子
	タファナー ロバー
	トホースト
	町田章
	渡邊千穂

令和6年度 総合科学部代議員会・各種委員会名簿

1. 総合科学部長室会議

総合科学部長	山田 俊弘
副学部長 (学士課程教育担当)	田中 亮
〃 (総合科学担当)	坂田 桐子
〃 (国際共創学担当)	FUNCK, CAROLIN・E H
〃 (総務担当)	大石 のぞみ
学部長補佐 (評価担当)	杉木 恒彦
〃 (国際交流担当)	FUNCK, CAROLIN・E H
〃 (記念事業担当)	長坂 格
学部長特別補佐 (人間社会科学研究科担当)	丸田 孝志
〃 (先進理工系科学研究科担当)	東谷 誠二
〃 (統合生命科学研究科担当)	石田 敦彦
総合科学科長	坂田 桐子
国際共創学科長	FUNCK, CAROLIN・E H

2. 教育領域主任

人間探究領域主任	上泉 康樹
自然探究領域主任	久我 ゆかり
社会探究領域主任	浅野 敏久

3. 研究推進委員会

総合科学部長	山田 俊弘
副学部長	田中 亮
〃	坂田 桐子
〃	FUNCK, CAROLIN・E H
〃	大石 のぞみ

4. 教務委員会

委員長	副学部長 (学士課程教育担当)	田中 亮
委員	総合科学科長	坂田 桐子
委員	国際共創学科長	FUNCK, CAROLIN・E H
副委員長	人間探究領域	上泉 康樹
委員	〃	盧 濤
委員	〃	島村 修平
委員	〃	Garry Kong
副委員長	自然探究領域	久我 ゆかり
委員	〃	水町 徹
委員	〃	梶原 行夫
委員	〃	小澤 久
副委員長	社会探究領域	浅野 敏久
委員	〃	渡邊 誠
委員	〃	小池 聖一
委員	〃	中尾 麻伊香
委員	国際共創学科	柴田 美紀

5. 卒業者判定委員会

委員長	学部長	山田 俊弘
委員	副学部長 (学士課程教育担当)	田中 亮
委員	学科長	坂田 桐子
委員	学科長	FUNCK, CAROLIN・E H
委員	人間探究領域主任	上泉 康樹
委員	自然探究領域主任	久我 ゆかり
委員	社会探究領域主任	浅野 敏久

6. 入学試験委員会

委員長	稲垣 知宏	
委員	人間探究領域	関矢 寛史
委員	〃	杉浦 義典
委員	自然探究領域	稲垣 知宏
委員	〃	横山 正
委員	社会探究領域	SCHLARB HANS MICHAEL
委員	〃	李 郁惠
委員	国際共創学科	岩本 洋子

7. 入学試験合格者判定委員会

委員長	学部長	山田 俊弘
委員	副学部長 (学士課程教育担当)	田中 亮
委員	学科長	坂田 桐子
委員	学科長	FUNCK, CAROLIN・E H
委員	入学試験委員会委員長	稲垣 知宏

8. 広報・出版委員会

委員長	国際共創学科	ヴィレヌーヴ 真澄美
委員	人間探究	辻 輝之
委員	〃	杉浦 義典
委員	自然探究	宗尻 修治
委員	〃	土谷 彰男
委員	社会探究	的場 いづみ
委員	〃	李 東碩
委員	国際共創学科	掛江 朋子
委員	必要と認められた者	荻田 典男
委員	〃	張 慶在
委員	〃	井上 永幸
委員	〃	小池 聖一
委員	〃	山崎 修嗣

9. 評価委員会委員

委員長	学部長補佐(評価担当)	杉木 恒彦
委員	副学部長(総務担当)	大石 のぞみ
委員	人間探究領域	杉木 恒彦
委員	自然探究領域	小澤 久
委員	社会探究領域	春日 あゆか
委員	国際共創学科	白川 俊之
委員	教務委員会	上泉 康樹

表4-4-3 予算および決算

(単位：千円)

事 項 等	R4 (2022) 年度			R5 (2023) 年度			R6 (2024) 年度		
	予算額	決算額	残額	予算額	決算額	残額	予算額	決算額	残額
総合科学推進プロジェクト	3,132,700	3,007,662	125,038	3,290,000	3,258,466	31,534	2,891,100	2,478,514	412,586
プロジェクト外									
配分予算	647,100	300,000	347,100	615,000	321,359	293,641	700,559	0	700,559
(小 計)	3,779,800	3,307,662	472,138	3,905,000	3,579,825	325,175	3,591,659	2,478,514	1,113,145
学部長配分予算	12,899,200	11,612,409	1,286,791	12,853,000	12,432,052	420,948	12,786,341	10,497,300	2,289,041
教養教育経費	2,800,000	945,701	1,854,299	2,800,000	2,041,490	758,510	2,800,000	512,200	2,287,800
(小 計)	15,699,200	12,558,110	3,141,090	15,653,000	14,473,542	1,179,458	15,586,341	11,009,500	4,576,841
計	19,479,000	15,865,772	3,613,228	19,558,000	18,053,367	1,504,633	19,178,000	13,488,014	5,689,986
学部教務関係経費	1,940,000	2,128,516	△ 188,516	2,150,000	1,921,921	228,079	1,950,000	1,947,143	2,857
研究科教務関係経費	320,000	122,416	197,584	120,000	92,643	27,357	120,000	94,823	25,177
国際共創学科運営経費	1,644,000	681,326	962,674	680,000	1,107,738	△ 427,738	1,100,000	1,009,414	90,586
広報・出版関係経費	1,200,000	1,300,972	△ 100,972	1,273,000	1,231,130	41,870	1,230,000	1,140,596	89,404
評価委員会経費	0	91,850	△ 91,850	0	0	0	0	0	0
学部入試関係経費	350,000	557,579	△ 207,579	560,000	660,834	△ 100,834	600,000	589,661	10,339
研究科入試関係経費	50,000	37,000	13,000	40,000	49,050	△ 9,050	50,000	49,200	800
(小 計)	5,504,000	4,919,659	584,341	4,823,000	5,063,316	△ 240,316	5,050,000	4,830,837	219,163
運営経費									
部局長裁量経費等	6,056,120	2,681,114	3,375,006	6,779,386	3,818,512	2,960,874	6,036,440	2,342,750	3,693,690
支援室配分予算	8,245,000	9,115,842	△ 870,842	8,245,000	10,080,551	△ 1,835,551	8,113,000	13,058,684	△ 4,945,684
管理的経費	14,301,120	11,796,956	2,504,164	15,024,386	13,899,063	1,125,323	14,149,440	15,401,434	△ 1,251,994
(小 計)	19,805,120	16,716,615	3,088,505	19,847,386	18,962,379	885,007	19,199,440	20,232,271	△ 1,032,831
計	39,284,120	32,582,387	6,701,733	39,405,386	37,015,746	2,389,640	38,377,440	33,720,285	4,657,155
総 計									

表 4-4-4 審議機関等

総合科学部((令和4年度～令和6年度)

名称	審議事項	構成員	議長	開催回数		
				令和4年度	令和5年度	令和6年度
学部長 室会議	(1)長期的な目標, 中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項 (2)教授会等の審議に関する事項 (3)教育活動, 研究活動及び社会貢献活動に関する事項 (4)国際交流に関する事項 (5)人的資源, 物的資源及び財務資源の活用に関する事項 (6)規則等の制定及び改廃に関する事項 (7)危機管理及び安全衛生管理に関する事項 (8)情報ネットワーク及び情報セキュリティーに関する事項 (9)教育研究活動等の点検・評価・改善及び公表に関する事項 (10)広報及び構成員の意見聴取に関する事項 (11)その他学部長室の目的を達成するために必要な事項	学部長 副学部長 学部長補佐 その他必要と認める者	学部長	19	25	24
学部 教授会	(1)学部における研究及び社会貢献活動に関する事項 イ 長期的な目標, 中期目標・中期計画及び年度計画における研究及び社会貢献活動に関する事項 ロ 教員選考における教育研究及び社会貢献に係る業績審査に関する事項 ハ 研究活動に関する事項 ニ 社会貢献活動に関する事項 ホ 教育研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項 ヘ その他学部長が必要と認めた教育研究及び社会貢献に関する事項 (2)学部における教育に関する事項 イ 長期的な目標, 中期目標・中期計画及び年度計画における教育に関する事項 ロ 教員の教育担当に関する事項 ハ 学生の受入れ及び身分に関する事項 ニ 学位の授与に関する事項 ホ 教育課程に関する事項 ヘ 教育に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項 ト その他学部長が必要と認めた教育に関する事項	学部長 副学部長 学部長補佐 学部専任教授(前3号に規定する者を除く。)	学部長	13	13	13
学部 教員会	審議事項なし 学部の教育研究等に関する重要事項について報告及び意見交換	学部担当教員	学部長	11	10	11

表 4-4-5 総合科学部 FD 実施状況

令和4（2022）年度 FD開催状況

回数	日時	テーマ	出席人数	講師
第1回	4月20日 14:00～15:00	<p>「総合科学推進プロジェクト研究成果報告」①</p> <p>材料から生命まで：ソフトマターサイエンスからの総合理解（令和2・3年度）</p> <p>「遊び心」をコンセプトにした新しいスポーツの創作（令和2・3年度）</p> <p>スポーツオノマトへの音声学（令和2・3年度）</p>	107人	<p>ヴィレヌーヴ 真澄美 教授</p> <p>田中 亮 准教授</p> <p>進矢 正宏 准教授</p>
第2回	5月18日 14:00～15:00	<p>「総合科学推進プロジェクト研究成果報告」②</p> <p>地域の自然資源に関する社会－自然環境関連アプローチの構築</p> <p>一呉市大崎下島久比地区の地下水資源の汚染状況に関する文理融合型共同調査（令和2年度）</p> <p>文理融合型調査による社会－自然環境関連アプローチの構築－呉市大崎下島久比地区の地下水資源の汚染状況に関する共同調査（2）（令和3年度）</p> <p>適温冷却が身体のコンディション及びリカバリー機能に及ぼす影響（令和3年度）</p> <p>哺乳類モデル動物における新規脳因子の脂肪蓄積・運動・筋肉への影響（令和3年度）</p> <p>アジアのなかの広島と長崎：冷戦と平和に関する総合的考察へむけて（令和3年度）</p>	112人	<p>長坂 格 教授</p> <p>長坂 格 教授</p> <p>長谷川 博 教授</p> <p>浮穴 和義 教授</p> <p>水羽 信男 教授</p>
第3回	9月20日～9月30日 オンライン（動画視聴）	「学生のカルト問題，保健管理，メンタルヘルス」	32人	<p>岩永 誠 副学長（学生支援担当）</p> <p>日山 亨 保健管理センター 教授</p>
第4回	9月27日～10月31日 オンライン（動画視聴）	「シンポジウム・第27回国立大学新構想学部教育・研究フォーラム」	19人	<p>広島大学 副学長 フンク カロリン</p> <p>広島大学情報科学部長 土肥 正</p> <p>富山大学都市デザイン学部長 渡邊 了</p> <p>長崎大学アジア環境レジリエンス研究センター長 馬越 孝道</p>
第5回	12月21日 14:30～14:50	「TAの活用と制度の適切な運用について」	79人	<p>教育学習支援センター</p> <p>丸山 恭司 教授（人間社会科学研究科）</p>
第6回	12月21日 15:00～15:30	「研究の紹介」	99人	<p>貝賀 早希子 准教授</p> <p>中林 雅 准教授</p> <p>片山 香菜 助教</p>
第7回	1月18日 14:30～15:00	「研究の紹介」	100人	<p>齋藤 光代 准教授</p> <p>澤井 努 准教授</p> <p>内山 尚子 助教</p>
第8回	3月15日 14:30～15:00	「研究の紹介」	64人	<p>中尾 麻伊香 准教授</p> <p>中村 江里 准教授</p> <p>満洲 正季 准教授</p>

令和5（2023）年度 FD開催状況

回数	日時	テーマ	出席人数	講師
第1回	5月17日 14:00～15:30	「総合科学推進プロジェクト研究成果報告」 菌糸圏と界面・物理科学 「地域まるごと博物館」の動画制作を通じた地域調査教育プログラム開発 アジアのなかの広島と長崎Ⅱ：戦争と平和に関する総合的研究にむけて ～材料から生命まで～生成・消滅・変化するソフト界面からの総理解 広島大学のEnglish medium instruction(EMI) 改善に向けて - EMI スキルアップ・サイトの作成プロジェクト	96人	久我 ゆかり 教授 浅野 敏久 教授 水羽 信男 教授 ヴィレヌーヴ 真澄美 教授 柴田 美紀 教授
第2回	6月21日 14:30～15:00	研究の紹介	87人	北梶 陽子 准教授 申 在烈 准教授 中澤 聡 准教授
第3回	7月19日 14:30～15:30	研究不正再発防止講習会	111人	理事・副学長（研究担当）
第4回	7月19日 14:30～15:30	サブティカル研修の報告		山崎 修嗣 准教授
第5回	9月1日 14:40～15:00	研究の紹介	78人	西 真如 准教授 王 崑陽 助 教
第6回	9月25日～10月10日	「シンポジウム・第20回国立大学新構想学部教育・研究フォーラム」ビデオ視聴 ●プログラム： ①『生成系AIの現状と自然言語処理研究・演習における利用』 ②『社会のなかのAIと大学』 ③『大学がAIとともに歩む未来とは』 ④『東京大学における生成AIの活用—生成AIと研究・教育—』 ⑤『学部教育における生成AIの活用と授業設計』 ⑥『大学初年次に対する一般情報教育における生成AIの活用事例』	15人	①静岡大学情報学部 准教授 狩野 芳伸 ②東京大学大学院総合文化研究科 講師 福本 江利子 ③東京大学大学院情報学環 教授 板津 木綿子 ④東京大学 理事・副学長 太田 邦史 ⑤東京大学教養教育高度化機構 特任准教授 中澤 明子 ⑥広島大学 情報メディア教育研究センター 助教 村上 祐子
第7回	11月15日 14:30～15:00	研究の紹介	81人	園井 ゆり 准教授 橋本 真太郎 准教授 石田 卓也 助教
第8回	12月20日 14:30～15:00	「TA制度を活用するために知っておきたいこと」	85人	隅谷 孝洋 教授（情報メデ教育研究開発センター）

令和6（2024）年度 FD開催状況

回数	日時	テーマ	出席人数	講師
第1回	5月15日 14:30～15:15	サブティカル研修の報告	73人	柴田 美紀 教授 杉木 恒彦 教授 匹田 篤 准教授
第2回	6月19日 14:30～15:20	「総合科学推進プロジェクト研究成果報告」 睡眠衛生は若年者のロコモティブシンドロームのリスクを減少させるか？ 菌糸圏と界面・物理科学（2） 核・原爆にまつわる表現の探究——アーカイヴズ・記憶と現代を架橋する実践	75人	田中 亮 教授 久我 ゆかり 教授 中尾 麻伊香 准教授
第3回	7月17日 14:30～14:50	「総合科学推進プロジェクト研究成果報告」 想起と表現に注目した、学びのデザイン研究	66人	匹田 篤 准教授
第4回	9月4日 14:30～14:50	研究の紹介	64人	KONG GARRY KA FAI 准教授 近藤 雅征 准教授
第5回	12月18日 14:40～14:50	TAの活用と制度の適切な運用に関する説明会 「Hirodai TA制度の活用と適切な運用について」	69人	教育学習支援センター 丸山 恭司 教授（人間社会科学研究科）
第6回	1月22日 14:30～14:50	学部改革のためのアンケート調査について 「総合科学部の現状と問題点」	84人	坂田桐子 副学部長・総合科学科長
第7回	3月19日 14:30～15:00	広島大学の教養教育の歴史と現状	83人	林 光緒 副理事（教育企画担当）